様式2

公 共 事 業 再 評 価 調 書（5回目再評価）

主 管 課 ： 都市公園課

1 事業概要	事 業 名 ： 中城公園整備事業		前再評価年度 ： 令和3年度
	事業種別 ： 都市公園事業	事業主体 ： 沖縄県	（H9～R10）
	事業箇所 ： 中城村、北中城村	根拠法令 ： 都市計画法、都市公園法	事 業 期 間 ： H9～R15
	（30,400） 総事業費(百万円) 31,904	費用内訳 ： 補助1/2	事 業 量 ： 96.3ha
（整備目的）	本公園は、去る大戦の戦禍をまぬがれた貴重な文化遺産で、昭和47年に国の史跡に指定され、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録されている中城城跡を核として、沖縄の歴史、文化、自然を積極的に体験、学習できる公園として整備するものである。		
1-2 前再評価以降の計画変更	・事業費及び事業期間の変更。		
2 再評価該当項目	□ ① 事業着手から10年を経過　□ ② 事業着手から5年以内の工事未着手 ■ ③ 再評価後一定期間（ 5年）を経過　□ ④ 事業の中止　□ ⑤ その他（ ）		
3 再評価に至った主な要因 （具体的理由）	■ ① 用地取得等の困難　□ ② 調査・設計の困難　□ ③ 事業の拡大　■ ④ 予算の確保 □ ⑤ 手続き・法令の問題　□ ⑥ 他事業との関係　□ ⑦ 整備効果の問題 □ ⑧ 当初計画が長期間　□ ⑨ その他（ ） 一部用地の取得難航、他公園の整備事業に予算を重点配分したことにより本事業の進捗が遅れた。		

4 事業の進捗状況（R2.3月時点）

項 目	事業費(百万円)	整備（供用面積）(ha)	用地取得(ha)	用地取得(筆)
計 画	31,904	96.3	96.3	1,417
実施済	22,953	16.0	85.6	1,299
率	72%	17%	89%	92%

4-2 前再評価以降の主な進捗：キャンプ場シャワー室、グスク西駐車場周辺の整備を行った。

5 事業効果の評価指標（検討年50年）（基準年R8）（単位：百万円）

①直接便益（旅行費用価値,施設利用価値）		62,855	① 用地費	19,630
②間接便益（環境の維持・改善,都市防災）	計	55,113	② 施設整備費	12,274
	（環境）	33,838	③ 維持管理費	2,896
	（防災）	21,275		
総便益		117,968	総費用	34,800
基準年換算（B）		78,798	基準年換算（C）	60,929

費用便益比 （B／C）= 78,798 ／ 60,929 = 1.29

6 事業を巡る状況の変化（前再評価以降）

① 社会・経済 ： 令和5年5月に新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、中城城跡の入城者数は増加傾向にある。ただし、令和7年度は物価高騰などの影響で、修学旅行などの団体来訪者が少なく、入城者数が減少した。

② 地元・自治体 ： 令和5年に「中城村・北中城村共同まちづくり計画」が策定され、まちづくりの方向性の1つとして、中城城跡を核に両村の歴史・文化・自然資源を保全及び活用することが示された。

③ 利害関係者 ： 相続に関する問題や地権者の所在不明、抵当物件、代替地要求等により、取得が難航している用地がある。

7 事業の必要性や効率性

① 事業の必要性・緊急性・有効性など ：
新・沖縄21世紀ビジョンに基づき、歴史遺産や風土等と調和し、憩いの場となる都市公園の整備に取り組む必要がある。そのため、引き続き整備を進め、中城城跡を核とした公園の魅力や利便性の向上を図る必要がある。

② 事業の効率性 :（代替案等の可能性）
用地進捗率89%を超えていることから、事業の推進を図ることが効率的である。

③ 事業効果の発現状況：
自然共生エリアを先行して供用したことにより来園者数は増加し、平成29年度に約20万人に達した。その後、コロナ禍や大型遊具の修繕に伴う利用停止等の影響により来園者数は減少しているが、シャワー室整備によりキャンプ場での宿泊が可能となるなど、公園の魅力や利便性の向上を図っている。

8 今後の対応方針・見通し

① 事業計画等 ： 用地取得難航箇所の解決に取り組むとともに公園中央部の主要園路の整備に取り組み、公園の利便性向上を図る。また、未整備となっている主要施設について、引き続き、中城村及び北中城村と整備進捗に向けた協議を行う。

② 対住民関係 ： 引き続き補償交渉を進めるとともに、一部の用地取得難航案件については、合意を得られるよう補償に伴う物件の移転先確保などについて、関係市町村と連携して取り組む。

③ 執行体制等 ： 現在の組織体制で執行は可能である。

9 対応方針：■ ① 事業継続（現計画）　□ ② 事業継続（見直し）　□ ③ 事業の中止

10 その他（前再評価での主な意見等）

●本事業の目的は、世界遺産に登録している城址を核としているので、文化交流ゾーンの整備をもう少し力を入れるべきと思われる。
●進捗の進んでいないゾーンについては、抜本的に計画を見直しすべきではないか。
●自然環境ゾーンへの経路が分かりにくいため、案内表示などの工夫もしてほしい。

＊ 1事業概要の上段（ ）は前再評価時点の計画